

史料に基づく高松の変遷把握

高橋良尚・吉川眞・田中一成

Historical Transition of Takamatsu Based on Historical Material

Yoshinao TAKAHASHI, Shin YOSHIKAWA and Kazunari TANAKA

Abstract: Takamatsu City is a port town which has been spatially formed and developed by the seaside for a long time around the Takamatsu castle. However, in the modern urbanization, the urban structure of Takamatsu has been changed into the city functioning as the important node of the traffic as called the gateway to Shikoku. Therefore, in this study, the authors are utilizing the historical materials and the spatial information technology, and analyzing the historical transition in Takamatsu by constructing the historical environment database. In particular, they are going to find the relationship between the changes of the city structure and the changes of transportation system.

Keywords: 港町 (port town), 歴史的変遷 (historical transition), 都市構造 (urban structure), 交通機関 (transportation)

1. はじめに

わが国における主要都市の大半は、近世に成立した城下町を基層に発達しており、その多くが地域独自の風土に依存し、地域の歴史や文化を象徴する都市を構成していた。しかし、近世、近代、現代へと時代が移り変わる中で、さまざまな要因を受けながら都市構造も大きく変化してきた。とくに、明治期以降の急速な近代化による産業の著しい発達、戦災による国土の損壊を再建する戦災復興に始まり、高度成長による幾多の整備事業の展開により、生産性重視の量的に豊かな社会基盤に大きく変貌を遂げた。

こうした背景の中、近年では歴史的環境を保全するだけでなく積極的に復元へと考え方がシフ

トし、時代を象徴する歴史環境を活かした観光事業も数多く展開され、歴史に対する関心は高まりつつある。しかし、歴史都市を有する日本において、歴史環境を保全、復元するにあたっては現代建築との調和が今後の主要な課題となっている。

一方、情報化社会にある現代において、空間情報技術はさまざまな場面で活用されており、GISは幅広い分野の情報基盤としての利用がより身近になっている。景観にかかわる政策でも、技術開発としてGISやCAD/CGを活用した3次元景観シミュレーションによる景観の対比・変遷の分析が一例として掲げられている。

2. 研究の目的と方法

本研究の対象地である高松は、江戸期より、海辺と密接に関わって空間形成され栄えたが、現在では、高等裁判所や四国地方整備局など四国圏を管轄する出先機関の大半が集積し、四国の中心拠点である都市へと変化している。また、高松城が

高橋良尚 〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮5-16-1

大阪工業大学大学院 工学研究科

都市デザイン工学専攻

Phone: 06-6954-4109

E-mail: yoshinao@civil.oit.ac.jp

日本三大水城の一つであり、くわえて、水城として最大と称されていたことから、過去と現在の景観対比による研究は行われてきた（高橋ほか，2013）．しかし，変遷に関する研究は十分ではない．

そこで，本研究では，収集した史料を基に空間情報技術を活用することで，近世から近代にかけての歴史環境データベースを構築するとともに高松における歴史の変遷を分析・把握し，都市構造の変化と交通機関の関係性を見いだすことを目的としている．

具体的には，GIS で構築された地形図データベースを用いて，近代から現代にかけての市街地の広がり，交通機関の位置把握といった歴史環境となるデータベースを作成している．作成したデータから変遷過程を平面の地図として整理し交通機関が都市構造に与える影響を把握している．また，作成した空間データと現代の数値標高データを組み合わせることで当時の DEM の作成を行い，地形図を用いて立体地図として表現し，当時の土地利用を視覚的に際立って表現することを試みている．

3. 研究の対象地域

歴史環境データベースを構築するにあたり，近代化以前の高松について把握しておく．近代化以前の高松把握には，本研究室で歴史環境 GIS の構築をめざした研究より確立された手法を活用した（西本ほか，2013）．具体的には，本研究室で所有している明治 21(1888)年に測量された 2 万分 1 迅速地形図を GIS 上に定位し，記載されている情報から近代化以前における高松の範囲を特定し，現代空間上に示すことで市制成立前と現代の高松の空間的位置関係を把握した（図-1）．

高松は，明治 23(1890)年に市制施行され，江戸期の城下町を基層に市街が形成されていた．当時の市街地は江戸期の城下の町割りを維持しており，高松城の石垣が瀬戸内海の波打ち際であり，

東西の海岸部には塩田が目立ち，市街の南側には高松に築城した歴代藩主の大名庭園である栗林公園が存在し当時の市街が形成されていることを確認した．とくに，高松は明治以降の近代的交通手段の発達により，鉄道連絡船が導入され海岸の埋め立て整備が行われ，一時代を築き上げた都市構造に大きく変化を与えることになる．このように，近代都市へと変貌してきた中で，城下町由来の都市から四国の玄関口と呼ばれるように交通拠点としての都市へと都市構造が大きく変化していった．

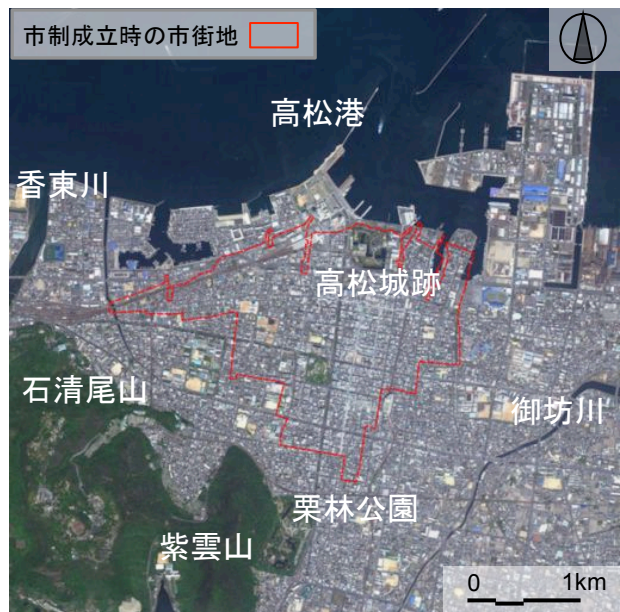


図-1 現代空間にみる近代化以前の高松

4. 地形図データベース

明治期から現代にいたるまで，長期にわたる変化を整理するため，変遷要因が詳細に記載されている明治中期から 7 期にわたって研究室で収集されている地形図を用いている（表-1）．これらを，GIS を用いて補正を行い現代空間に定位しデータベースの基盤を構築している．

表-1 地形図一覧

編年	名称(縮尺)	図歴
明治中期	2万分1迅速地形図 (1/20000)	明治21年(1888)
明治後期	2万分1正式地形図 (1/20000)	明治43年(1910)
昭和初期	昭和三年調 高松市勢一斑 (1/10000)	昭和3年(1928)
戦後復興期	1万分1地形図 (1/10000)	昭和28年(1945)
高度成長期	2万5千分1地形図 (1/25000)	昭和46年(1971)
安定成長期	2万5千分1地形図 (1/25000)	平成元年(1989)
経済変革期	2万5千分1地形図 (1/25000)	平成16年(2004)

5.1 空間データの作成

[illegible]

5.2 市街地の拡大過程および交通機関の発達

高度成長期では、昭和 20 (1945) 年の空襲により市街地の 8 割が消失したため以前の比較が難しいほど道路網が変化し、一部鉄道路線が新たに新設されていることが確認できる (図-5)．経済安定期では、昭和 63 (1988) 年の本州四国連絡橋 (瀬戸大橋) の開通により、鉄道連絡船は廃止されることになり、同時に港まで延びていた路線周

凡例

- 市街地
- 国有鉄道(予讃線)
- 塩田

0 1km

凡例

- 市街地
- 国有鉄道(予讃線,高徳線)
- 高松琴平電鉄
- 塩田

0 1km

図-5 高度成長期



図-6 経済安定期

6. 昭和初期の高松を鳥瞰

高松において交通機関の発達は、港の整備に大きく寄与する要因であり、とくに鉄道連絡船の登場は高松港を一躍クローズアップし、四国の玄関口としての交通拠点を高めた都市構造に変化していった。そこで、高松港の改修事業や鉄道網の整備が進んだ昭和3(1928)年に着目している。

具体的には、現代の数値標高データ5mメッシュを利用し、構築したデータベースと組み合わせることで当時のDEMを作成している(図-7)。表1で示している地形図「昭和三年調高松勢一斑」と前述したDEMを組み合わせ昭和3年の土地利用を鳥瞰的に表現している。鳥瞰的に捉えることで、平面的な地図では捉えきれない部分を立体的にして印象的な表現としている(図-8)。なお、建物は、強調処理を行っている。

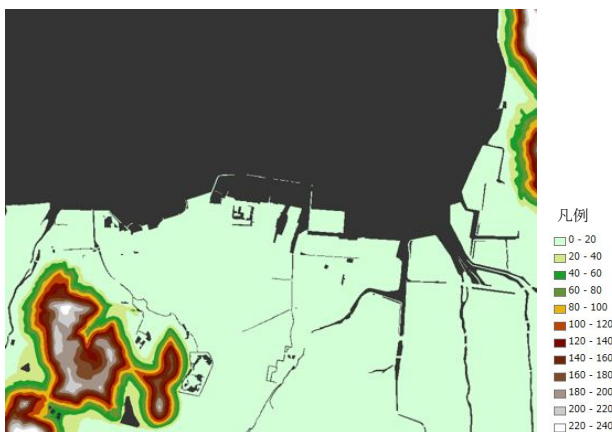


図-7 昭和3年時のDEM

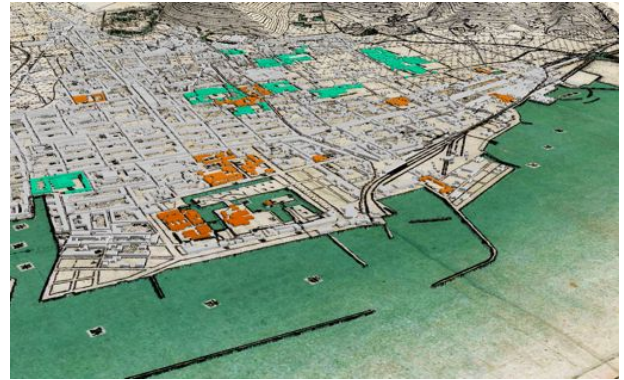


図-8 昭和3年の高松港

7. おわりに

本研究では、高松の近代化による都市構造の変化と交通機関の関係性に焦点を置き、変遷要因を整理・把握した。高松において交通機関の発達は都市構造と非常に密接な関係にあり、とくに鉄道連絡船の登場は、港に多大な影響を与え、近代都市へと変化を遂げるには重要な要因であった。さらに、それら要因を現代の情報システムを積極的に活用することで、高松の歴史環境データベースを拡充することができた。今後はさらに、変遷過程の視覚的把握を目指し、GISとCAD/CGといった空間情報技術を融合的に活用して都市変遷を把握することを考えている。

参考文献

- 高橋良尚・吉川眞・田中一成(2013)：史料に基づく高松の景観復元，地理情報システム学会講演論文集，22，B-1-4. pdf (CD-ROM)．
- 西本貴洋・吉川眞・田中一成(2013)：大阪・梅田にみる都市の近代化，地理情報システム学会講演論文集，22，B-1-2. pdf (CD-ROM)．
- 高松市史編集室著(1964)：新修高松市史Ⅰ，高松市役所．
- 高松市史編集室著(1966)：新修高松市史Ⅱ，高松市役所．